

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	26 日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	広橋の御葉付イチヨウ					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1974年(昭和49)3月26日					
所在地	吉野郡下市町広橋1731					
所有者 管理者	安楽寺					
員数	1株					
時代区分						
樹木の場合	(樹木名) 御葉付イチヨウ			(樹齢) 不明		
案内板の状況	安楽寺観音堂境内に奈良県の説明板が設置されている。					
公開	いつでも見ることができる					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 樹高約20m、幹周約4m					
当面の課題	樹勢に迫力が感じられない。御葉付の銀杏が確認できない。					
今後の課題	主幹が途中でなくなっているように見える。樹勢の復活を祈る。					
その他 (由緒など)	イチヨウはおよそ1億年も前の形質を保ち続けていることから生きた化石ともいわれており、古くに中国本土から渡来し、万葉集に「知智の実」として詠まれている。御葉付イチヨウは胞子を葉の上につける状態を呈し、先祖帰りの例証として植物の進化系統学上きわめて貴重な資料である(県の説明板より)					
コメント	当寺のイチヨウは全国的にも数少ない貴重な御葉付イチヨウであるが、落ちていた銀杏は御葉付ではなかった。茂っている葉を確認しても同様である。お寺の坊守さんに聞いたところ、近所の人でも御葉付は殆ど見ることができないとのこと。主幹を切り木が若くなったことが影響しているかもしれないとのこと。樹勢の復活を期待したい。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	9月	26日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	広橋の御葉付イチヨウ
------	------------

観音堂と御葉付イチヨウの木	観音堂(聖観音・阿弥陀如来・2体の四天王を保管)
---------------	--------------------------



樹勢が弱く見える

主幹が途中でなくなっている



人との対比

奈良県の説明板

